

防コミの歩き方



「河川安全安心見守り活動」検証訓練の実施—自助・共助・公助の確立

平成20年7月28日に発生した都賀川増水事故の教訓から、灘区では防災福祉コミュニティ等の地域住民が主体となり、「河川安全安心見守りパトロール」を実施しています。

日頃のパトロール等で構築した関係を生かし、どれだけ迅速かつ安全に活動をおこなえるか、各関係機関と合同で検証を実施しました。

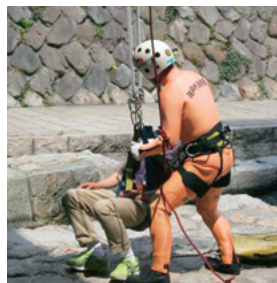
訓練内容は、情報伝達・参集・活動訓練（都賀川全域及び高羽川親水施設周辺）で灘消防署からの電話連絡及び「ひょうご防災ネット」お知らせメールの配信並びに増水警報システム（回転灯）及び電光掲示板の作動を訓練開始の合図としました。各地区の連絡網によって情報伝達をおこない、防災福祉コミュニティごとに指定された場所に参加し、パトロール経路の確認の後、参集したメンバーによって、ピクトグラムというサインボードの活用や手話通訳により、幼稚園児や聴覚障がい者に避難の呼びかけや逃げ遅れ者への避難誘導をおこないました。

また、灘区連合婦人会の皆さんが幼稚園児に紙芝居を使って防災学習を実施し、



大人だけでなく子どもたちに対しても都賀川増水事故の教訓を風化させないように伝えていきました。

次に、灘消防署の救助隊と灘消防団が合同で、流水救助訓練を披露しました。現場さながらの訓練のためか、訓練を見守っ



ていた幼稚園児たちからも「がんばれー」「がんばれー」ととても大きな応援の声が響いていました。

最後に、活動上の問題点や今後の活動について、参加者、関係機関が集まり意見交換をおこないました。意見の中には、健常者だけでなく、知的障がい者や聴覚障がい者のことを考えた上で、ピクトグラムに使用する漢字にふりがなを付けたり、現在のデザインを変更し、より災害が迫っていることをわかりやすくしたほうが良いとの意見が出されました。

災害から身を守るために地域住民により定期的に訓練をすることの重要性を改めて実感しました。



（灘消防署消防防災課 一条流星）